

中央

創業3周年特集号

昭和53年8月
中央タクシー株式会社



主人にも

おすすめしました

一言で「びっくりしました。」
今どきこんなサービスの良い
運転手さんの態度に感激しまし
た。全国にこんなすばらしいタ
クシー会社があるわよと宣伝し
たいくらいです。
主人も何度か長野に行きます
中央タクシーを利用するように
すすめました。

田中百合子

松本市沢村
田中百合子様のアンケートより



謙太郎君
青木幸雄 7/16生
長男

千菜果ちゃん 3/28生
五十嵐廣央 長女

雅子ちゃん 10/7生
宮崎秀紀 二女

寛紀君 9/26生
保坂敏雄 長男

裕美子ちゃん 8/21生
鈴木孝男 長女

わたしも3オデス

「パパ」「ママ」じょうぶに育ててくれて、ありがとう

おやじ頑張れよ

桜ヶ丘中学校 一年
竹中信浩

後記

父が中央タクシーに入社して、早や三年がすぎました。はじめ父がタクシー会社に入ると聞いたときは驚きました。ニュースなどでは毎日といってよいほど交通事故が起っています。そして、あのおっちょこちよいの父がタクシーの運転をするという、とても心配な気がしました。でも、今ではそんな心配は、ありません。毎日の仕事ですから父もいっしょうけんめい気をつけています。だからぼくたちも安心しております。



中央タクシー
ホテル部門に
進出!!

うちの父は、仕事に関しては大変けじめのある方で、夕飯に帰って来て一休みしているときの父の目は、ほんとうに、いっしょうけんめいになっていると

父が中央タクシーに入社して、早や三年がすぎました。はじめ父がタクシー会社に入ると聞いたときは驚きました。ニュースなどでは毎日といってよいほど交通事故が起っています。そして、あのおっちょこちよいの父がタクシーの運転をするという、とても心配な気がしました。でも、今ではそんな心配は、ありません。毎日の仕事ですから父もいっしょうけんめい気をつけています。だからぼくたちも安心しております。



7月より、ホテル「こづまや別館」が私たちの仲間になりました。

創立三周年記念として制作されたこの社内報は、いま創刊号としてここにあります。今回の作業を通じ創業当時をたびたび思い出しました。創立・創刊、事の大小の異いはありますが通じるものもかなりありました。その中で特に感じたことは、創り出すということは何んとかしなければ、俺がやらなければそんな感情があり続けるということではないでしょうか。当時、全員がそうでした。しかし今もそのような精神は当社に絶対に必要なのです。この社内報に直接、間接に参加協力して下さい。特に企業訓練研究所島田睦雄氏には一からのご指導をいただき誠にありがとうございました。(牧野)

創業三周年を迎えて

代表取締役社長

宇都宮 恒久



創業満三年をむかえて

会長 宇都宮 義久



もあつた。

今、創業満三年を顧て、会社幹部の諸氏又乗務員諸君の、誠心誠意の努力に対して心から敬意を表するものである、三年の日月は千余日の短かい日時であるが、無から有を生ぜしむる努力は正に創業の苦しみであった。昔から石の上にも三年といわれるが、三年たった今日道は切り開かれた。

しかし企業に終点はない、しかも企業は現状に立ち止って居る事は許るされない、サービス日本一をめざして、この願いは未だ道遠くして、困難な道程ではあるが、千里の道は一朝にしては越えられない、一步一步確実な足どりで、基本に忠実に前進せざるまい。

いよいよ社長はじめ全従業員諸氏の努力、精進を期待して止まない。

「お客様に真のサービスを提供しよう」と声高々に掲げ新しいタクシーの建設を使命とし、三年が過ぎました。

よく座みの苦しみと言われるように、創業当時それなりの苦労を味わいながら、それでもおかげさまをもちまして、一応の発展を得られましたことを、この紙面をかりまして、ご協力を賜りました多くの方々に、また社員とご家族に心よりお礼申し上げます。ところでございます。

これまでの三年が決して平坦な道程でなかったように、日々に新たに迎える未来には当然、多くの苦難が待ちうけていることでありましょう。むしろ中央タクシーが無限に歩み続けること

を思えば、三年間はほんの入口であり、ようやく扉が開いた程度であります。

生みの苦しみから次は常成長を望めば、常にそれなりの苦労が発生します。私は経営を司るものとして、その苦しみ苦労を謙虚に受けとめていきたいと思ひます。

中央タクシーは、まずは我々近隣の人々から安心して気持ち良くご利用いただけなければなりません。そんな身近かなお客様を本當にたいせつにしてこそ

京都、長野市にふさわしく、県下に大きく翼をひろげ、更に大きく、より力強く育っていくのではないのでしょうか。私はそれを心から期待し、心より願っております。

三年の躍動
いまここに
創立3周年

「創業当時」あの頃の思い出

昭和五十三年七月二十二日

中央タクシー営業開始の日である。

待ちわびた午前〇時の時報と共にCTマークが十八号線を北へとび出す。

排気ガスと一緒に残されたテールの赤

中天に映える夏の月がそれを見守る。

たった十台

無線がない 途中で立ち寄り電話する

客もない 夢中で流し客を拾いまくる

モクモクとハンドルを握る十八人の頭の中には

今日の客を明日につなぐことしかなかった

あれから三年

今宵は曇り

だがあのエンジンの響きとテールの流線は今もそこにくっきりと浮かんでくる

二十三時より社長、専務、管理者及び乗務員全員による出陣式。社長の初陣の挨拶に合せ参加者全員により仕事に対する決意を確認しあい出陣式を納める。

昭和五十三年七月二十一日の

業務日誌より



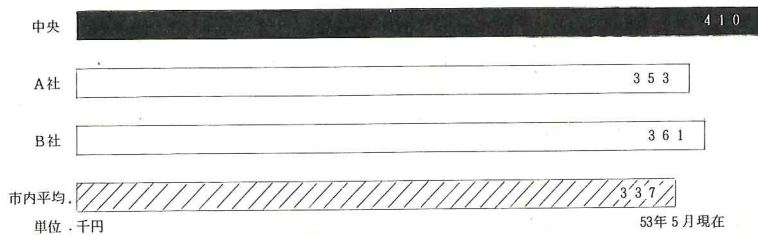
昭和五〇年七月某日の記念すべき写真。
行事予定表には、七月二日の事業開始に至る間の記事・駅構内営業申請・教育開始等が記入されている。



《3年連続》

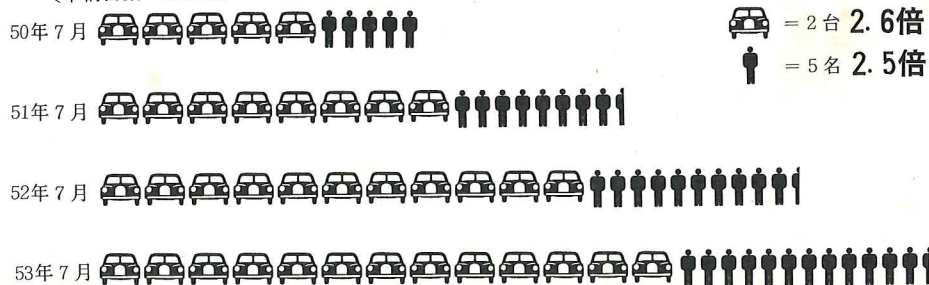
〔業界トップのこの実績〕

〔年平均月額〕



《目で見える当社の成長》

〔車両台数・社員数〕



ただいま終了

夏期サービス強化運動 (昭和53年6月1日～7月31日)

乗務員の感じは? 「良かった」が89パーセント!!



サービス強化運動は、私たちの日頃の営業にたいしお客様からの意見を聞き、また私たち自身、自分をみつめなおし、「中央タクシーはサービスを本当にたいせつにし、そして実践する会社」として一層の徹底を願って実施されました。

期間 六月一日より七月三十一日まで
 実施内容 ☆社内啓蒙ポスター ☆車内パネル表示 ☆お客様アンケート調査 ☆終業時サービスについての簡単な自己チェック表提出 ☆指導車巡回によるサービス実施指導 以上

アンケート調査結果からみますと、乗務員の感じは「良かった」が89%となかなか立派な評価がでております。
 ドアサービスについては「手で開けてくれた」が39%ともう一歩、お客様への挨拶は、乗車時74% 降車時86% 良かったですね。
 しかし私たちは、この現状で満足してはいけません。まだまだ反省しなければならぬこと、今後もこの実績をふまえて頑張ろうではありませんか。

アンケート結果

ご利用方法は?	電話注文 65%	流し16%	タクシー乗場19%
電話の応対は?	良かった 78%	普通22%	悪かった0%
お約束の時間は?	守れた 96%	遅れた3%	早すぎた1%
乗務員の感じは?	良かった 89%	普通10%	良くなかった1%
乗務員について	「ご乗車ありがとうございます」のあいさつをした 74% しない26%		
	行き先を復唱した 78%	しない22%	
	ドアを手で開けた 39%	自動ドアで開閉した 61%	
	運転は安全だった 80%	普通20%	乱ぼうだった0%
	ことばづかいはいい 65%	普通 33%	悪い方だ2%
	ありがとうございました、お忘れものはございませんかと言った 86%	言わなかった 14%	

(乗務員対象)

今日の営業はいかがでしたか	満足 16%	まあまあ 50.6%	あまりよくない 33.4%
老人や病人に手をかせてあげた	あげた 25%	そのような客がなかった 68%	あげなかった7%

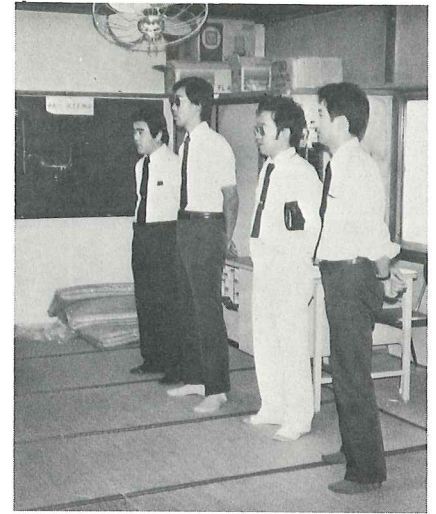
夏期サービス強化運動実施報告書
 夏期サービス強化運動は、乗務員の士気を高め、お客様へのサービス向上を図ることを目的として実施されました。この間、乗務員は高い士気で業務に励み、お客様からの好評を博しました。今後もこの好成績を維持し、さらなるサービス向上を目指してまいります。



ただいま実施中

プロドライバー事故防止コンクール

昭和53年7月1日～12月31日



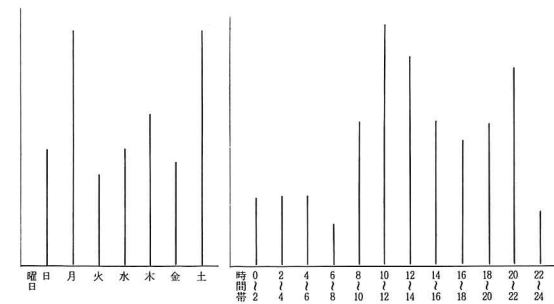
「私達はお客をたいせつにしまーす」
 大きな声が響きわたる朝の仕業点呼

やまびこ団体の開催を契機におこなわれるこのコンクールは「交通事故の防止」と「接客マナーの高揚」を目的とした業界挙げてのコンテストです。

私達はすでに「無事故・無違反強化運動」および「サービス強化運動」の社内キャンペーンで大きな成果を挙げた実績をもっております。このコンクールは、先の二つのキャンペーンの総仕上げと受けとめ「安全運転・親切タクシーの中央」の位置づけをさらに強めようではありませんか。社員一人一人の努力の積み重ねは当コンテストにおいて最優秀事業所受賞の栄冠をかちとるものと確信しております。

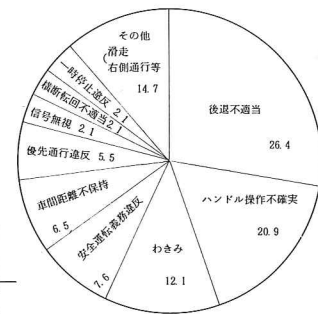
コンクールの内容
 期 間 七月一日より十二月三十一日まで
 主 催 県警本部、陸運事務所
 所 属 県ハイヤー協会

時間帯別事故発生状況



昭和53年7月1日より52年12月31日迄
 (第1・第2当事者にかわらず)

事故原因別発生状況



目ざそう最優秀事業所賞を!!

ワースト1はやはりバックによる事故

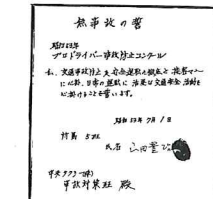
後進不相当による事故は運送用自動車の中でもタクシーの特別

長といわれますが、残念ながら当社も例外ではありません。事故原因のワースト3を見てみますと2位がハンドル操作不確実、3位わきみです。

この三つに共通していることは一方的なハンドルを握る者の過失事故です。ですからこれは絶対になくせる事故とも言えるのです。

時間帯別では一〇時から一四時が事故発生ピークです。私たちは、とかく疲労や道路の混雑に事故原因を押しつけてはいないでしょうか。

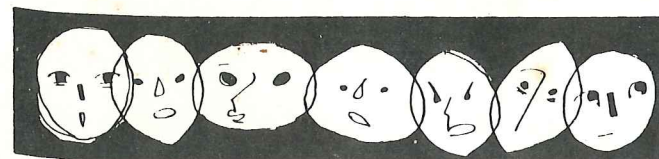
また、週間事故発生状況では、月曜日と土曜日に集中しております。考えさせられますね。事故は絶対になくさねばなりません、まずは自分自身を謙虚に!!



事故対策班、第五班全員により提出された無事故の誓。

汗と涙とハンドルと

「仕事を終えて」の感想文より抜すい(原文のまま)



- ◎ お客さまは神様ですというけれど、福の神から厄病神までいろいろな神様がいらっしゃいます。今日の神様はどうもピンではなくてキリのようで……。
- ◎ お客様のために気を使って逆にバ声をあびせられました、こんなときどこまでガマンをすればいいのか？
- ◎ 外は暑い仕事はないし、夜は夜で待たさせる。いつもと同じ一日でした。
- ◎ 明日はもっと忙がしくなるよう祈願したい。会社の上役さんアイデアをしぼってもっと仕事をとってきてください。おねがいします。
- ◎ 雨は降るし暇だし客にはシートを汚されるし、さんざんな一日であった。とみりゅうで食べたトン汁がうまかった。
- ◎ 初めて中型に乗れてうれしかった。あしたも中型でありますように。
- ◎ 毎日毎日鉄板の中で焼かれてイヤになっちゃうな—ああアツイ。来週こそは頑張ります。
- ◎ せまい小路から女の子の自転車が急に飛び出す。2、3秒の差で大変なことになるところ……防衛運転にも限界がありますね。
- ◎ 田町から五分一までの間バカ、タワケをくりかえす客が乗車し不愉快な思いをした。
- ◎ 予約キャンセル、酔っぱらい、トラブル。今日は生まれてから一番イヤな日であった。もうこりごりです。
- ◎ 出勤時のつまづきで運収が上らず残念至極。順調なスタートの重要性を深く心に抱いたり。

石橋 三昭
大矢 勝睦
宮崎 良
奥野 実
峰村 祐司
和田 吉一
福住 博夫
山田 豊治
広田 稔
牧 武志
竹中 敬浩

より一層のサービスを

それが中央タクシーの生きる道

営業部長 北村光正

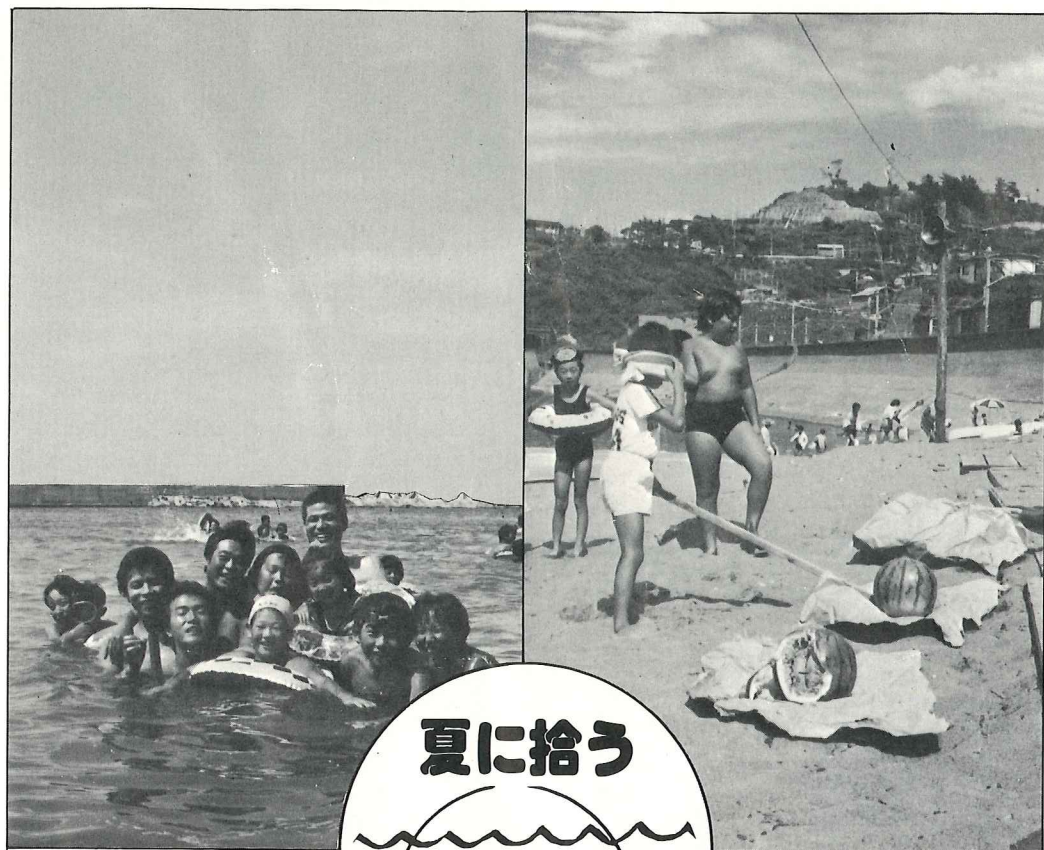
開業時、わずか乗務員十八名での営業は正直不安の先立つ日々でありました。

古い社歴の会社は、長年の営業努力により、一般市民はもとより殆どの企業・官庁・デパート・報道関係と強い結びつきがあり、当社がお客様の開拓をする事は、石垣の根石を抜き取るのと同じくらい難しい事でした。そのようななかで当社のお客様を持つまでには、地味で根気のいる方法を重ねてまいりました。

電話注文を受ければ、必ず次にもご注文を頂くお願いや、乗車いただいたお客様に満足していただき、再び利用していただくように務め、そのお客様より家族の方々や知人の方々へも中央タクシーを知ってもらおうよう努力いたしました。それは、お客様一人一人の出会いをたいせつにし、お客様の立場に立った接客マナーが必ず新しいお客様を増していく、ま

たそこに新規会社の生きる道がある、と固く信じておりました。

無線での言葉使い・お迎の際の挨拶用語・釣銭の渡し方等、日頃のマナーが次第に評価を受け固定客を持つに至った現在。それだけに我々は今までの努力を忘れがちなものです。これからは本物の真価を問われる時であり、サービス行為を真から自覚し積極的なサービスで安心と満足の提供者になることが中央タクシーの生きる道であります。そして、それが我々の生活の向上を計る道だとも強く信じているところであります。



夏に捨てる



某月某日
若いアベックが乗り込む
シートの片すみにベタッとくっついたまま離れない
しかも超ミニの女の子
男の手先が気になってかなわない
おれさまをいったい何だと思ってるんだろう
強くカーブをきいてみる。離れない。
えいままよとクーラーを切る
ムダな抵抗やめなさい
おれも早くヨメさんほしいなア

